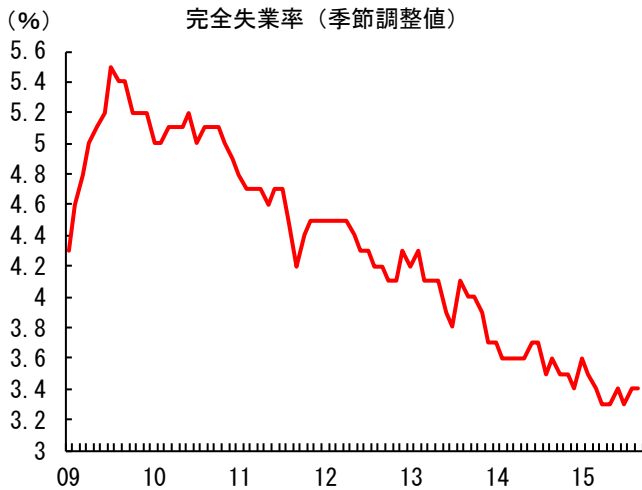


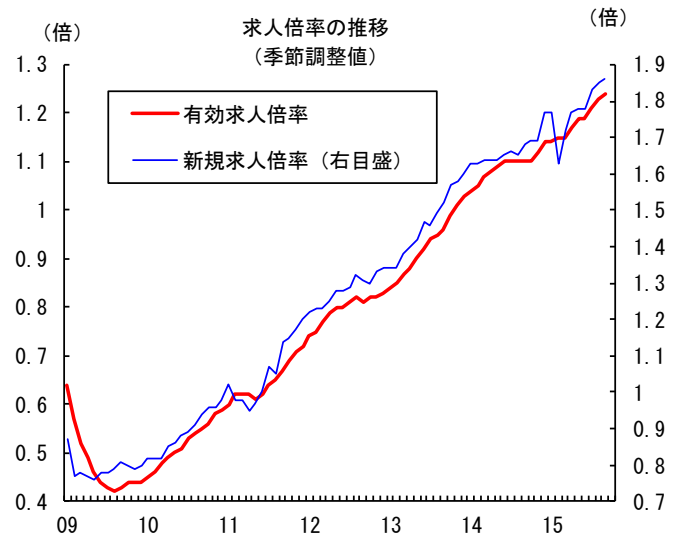
テーマ：労働力調査・一般職業紹介状況（2015年9月） 発表日：2015年10月30日（金）
 ～雇用環境は引き続き良好。ただし、先行きは鈍化の懸念も～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528



（出所）総務省統計局「労働力調査」

（注）2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

○ 雇用者数は着実に増加

総務省から発表された2015年9月の完全失業率は3.4%（8月：3.4%）と、事前の市場予想に一致した。失業率の水準自体は前月と同じだが、内容は見た目以上に良好だ。季節調整済みの就業者数は前月差+24万人（8月：▲3万人）、雇用者数が前月差+28万人（8月：+4万人）と比較的大きな増加となっている。7-9月期平均で見ても4-6月期対比で就業者数で+0.3%、雇用者数で+0.5%上回っており、就業者数、雇用者数とも着実な増加基調が続いていることが確認できる。労働参加率の上昇を伴いながら雇用も増加しており、雇用環境は引き続き良好と判断して良いだろう。

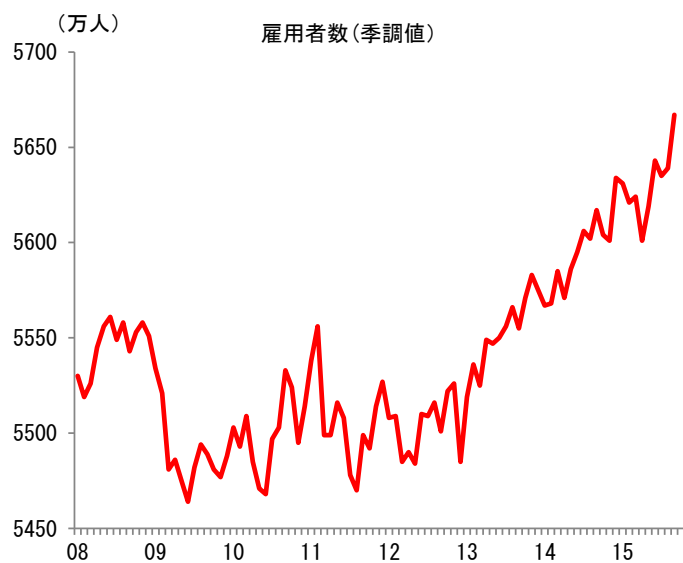
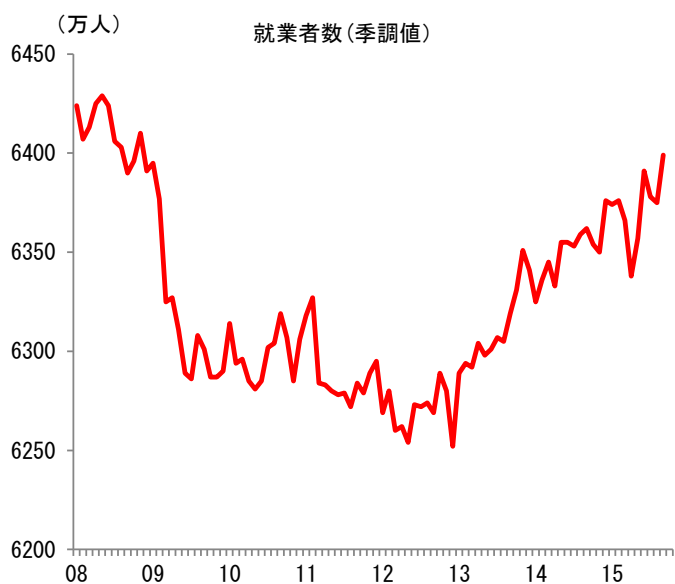
ただ、このところの雇用の増加を牽引しているのはもっぱら女性であり、なかでもパート・アルバイトといった短時間労働者中心の雇用増となっていることには注意が必要だろう。雇用環境が一層改善し、正社員の明確な増加がみられるようになるかどうかは今後の注目点だ。

○ 求人は先行き鈍化の懸念も

厚生労働省から公表された15年9月の有効求人倍率は1.24倍と、前月（1.23倍）から0.01ポイント改善、新規求人倍率も1.86倍と、前月から0.01ポイントの改善となった。有効求人倍率は1992年1月（1.25倍）、新規求人倍率は1991年11月（1.94倍）以来の高水準であり、労働需給の引き締まりが示されている。

一方、有効求人数は季節調整済み前月比▲0.7%（8月：+2.2%）、新規求人数は前月比▲2.1%（8月：+1.1%）と、ともに3ヶ月ぶりに減少した。これまでの増加の反動の面がある上、求人水準も高く、現時点では特に問題のある数字というわけではないだろう。もっとも、先行きも求人の強さが続くかどうかは分からない。現状、雇用は好調だが、足元でみられる景気の弱さが、今後の求人や雇用者数に影響する可能性は十分ある。目先、求人の伸びが鈍化する可能性を見ておいた方が良いだろう。雇用者数についても、増加

ペースが減速する可能性が高いと予想する。さしあたっては、来月公表される10月分の結果で、求人が2ヶ月連続で減少するかどうか注目したい。



(出所) 総務省「労働力調査」